生乳生産基盤維持・向上を考える

■平成 23 年 8 月～平成 24 年 7 月
1 年間の経産牛 1 頭当り乳量 24 kg
■平成 23 年度の死廃頭数 969 頭
■ 8 月 1 日現在　空き牛床の数 999 床

広酪は、平成二十三年度を初年度とする第六次中期三か年計画に基づき業務執行にあたっております。

この計画のスローガンには『夢の実現3S』を掲げ、3Sの柱は①育つ酪農経営、②育つ後継者、③育つ育む新規就農者で構成しております。

「育つ酪農経営」には、酪農経営所得向上への取り組みを揚げ、生乳出荷組合員における平成二十二年度時点の経産牛一頭当たり二十四kgの産乳量実績を、向かう三か年で二十七kg水準に達することを目標に置いておりますが、現状顕著な改善を示す状況にはありません。

中国生乳販連は、平成二十四年度HOSTYプランを策定し、年間生乳受

【中国生乳販連の年度別生乳受託量推移】　（単位：千t・戸数）

会員名	項　目	H13	H15	H17	H19	H21	H23
中国計	受託乳量	341,910	344,154	333,047	323,183	307,174	290,831
	出荷戸数	1,591	1,467	1,308	1,156	1,015	910
	受託乳量 H13 対比	100.0%	100.7%	97.4%	94.5%	89.8%	85.1%
	出荷戸数 H13 対比	100.0%	92.2%	82.2%	72.7%	63.8%	57.2%
岡山	受託乳量	130,768	127,377	118,639	113,692	104,615	98,603
	出荷戸数	605	577	510	439	380	343
	受託乳量 H13 対比	100.0%	97.4%	90.7%	86.9%	80.0%	75.4%
	出荷戸数 H13 対比	100.0%	95.4%	84.3%	72.6%	62.8%	56.7%
広島	受託乳量	66,551	63,969	61,772	60,915	59,358	55,619
	出荷戸数	285	251	232	211	186	173
	受託乳量 H13 対比	100.0%	96.1%	92.8%	91.5%	89.2%	83.6%
	出荷戸数 H13 対比	100.0%	88.1%	81.4%	74.0%	65.3%	60.7%
鳥取	受託乳量	56,213	62,715	65,127	64,681	62,569	58,960
	出荷戸数	288	269	248	221	202	173
島根	受託乳量	63,398	65,087	63,837	62,187	61,395	59,207
	出荷戸数	260	240	211	192	164	152
山口	受託乳量	24,980	25,006	23,672	21,708	19,237	18,442
	出荷戸数	153	130	107	93	83	69

※出荷戸数は各年度 4 月の戸数

特集”生乳生産基盤の現状に着目”

託量三十万トン復元計画を盛り込んでいます。同連が発足した平成十三年度の受託乳量三十四万一千トンは、十年後の平成二十三年度では二十九万トンと平成十三年度対比で十四・九％減少となる中、管内の乳業者による生乳処理量が十年間安定して三十万トンが堅持されていることを根拠に、三十万トン復元を掲げています。

広酪の生乳生産基盤は、生乳生産日量も百五十トンを割り込み、平成二十四年八月現在では、平均百四十四トンと過去最低の状況で推移しました。

平成二十四年度に入って、広酪の生乳生産量は前年比百％を下回り、四月から八月の生乳生産量は前年対比九十六・九％で推移しています。

生乳生産量の低下は、組合員各位の酪農経営、組合組織運営にも影響をもたらします。

以下に、生乳生産基盤に関する情報を提供しますが、組合員各位におかれまして、打開策など意見や提案がありましたら広酪までお寄せください。

一　広酪の経産牛一頭当たりの乳量は二十四kg

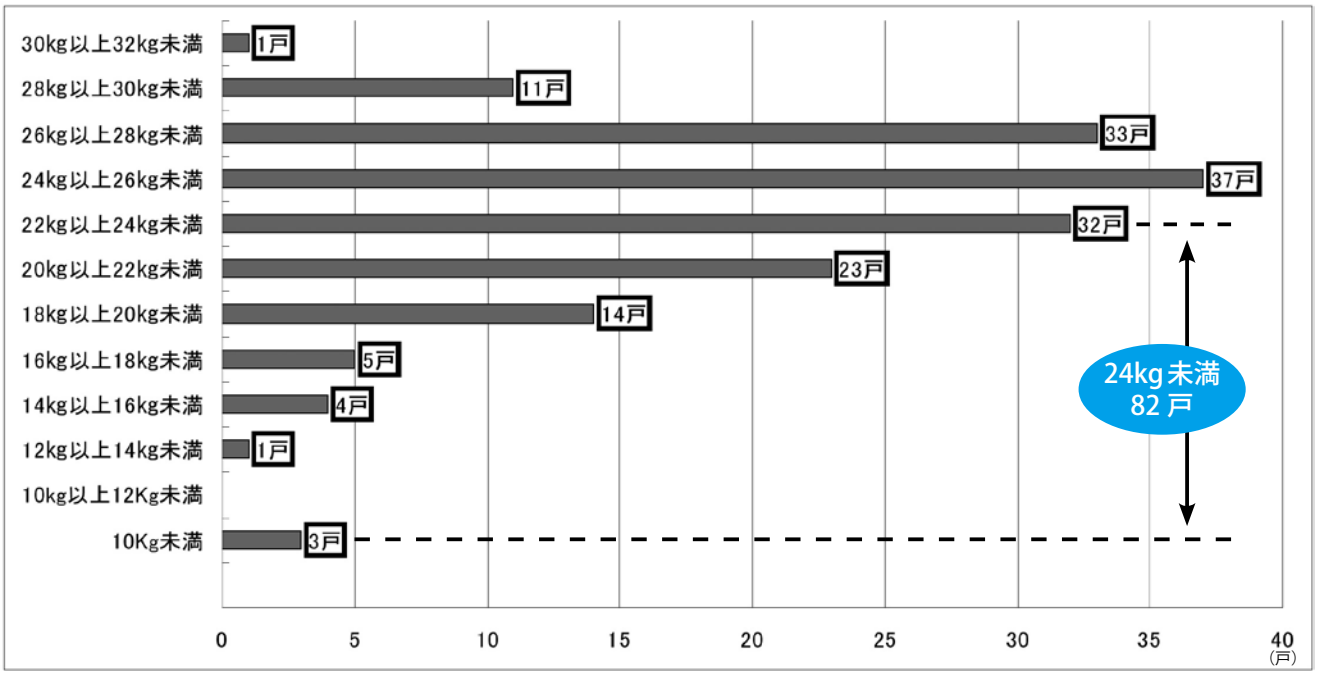
この度、平成二十三年八月から平成二十四年七月の一年間を期間とする経産牛一頭当たりの産乳量実績を調査した結果、二十四kgでした。平成二十二年度実績から変化が見られない状況にあります。以下のグラフは、経産牛の産乳量別の戸数分布です。

ちなみに、この期間で最も高い産乳量実績は、三十一・一kgで、一方、最も低いのは、五・四kgの実績でありました。

生乳出荷戸数の内、二十四kg未満は八十二戸で全生乳出荷戸数の五割を占める状況にあります。

酪農経営所得の改善に向けても、飼養管理等の見直しにより産乳量を向上させることに再度着目して頂きたいと考えます。

【経産牛の産乳量別戸数分布】



地域	戸数	年間平均	年間平均乳量
備　北	47 戸	24.5 kg	8,974.1 kg
南　部	16 戸	24.5 kg	8,954.6 kg
西　部	55 戸	23.6 kg	8,622.2 kg
東　部	46 戸	23.7 kg	8,687.7 kg
合　計	164 戸	24.0 kg	8,797.0 kg

二　平成二十三年度の乳用牛死亡廃用の頭数（NOSAI広島提供データから引用）

平成二十三年度の県内における乳用牛の死亡廃用合計頭数は九百六十九頭で、死廃原因で最も高いのが運動機能によるもので二百八十頭（構成率二十八・九％）。続いて消化器百九十八頭（構成率二十・四％）、泌乳器百六十五頭（構成率十七％）となっております。

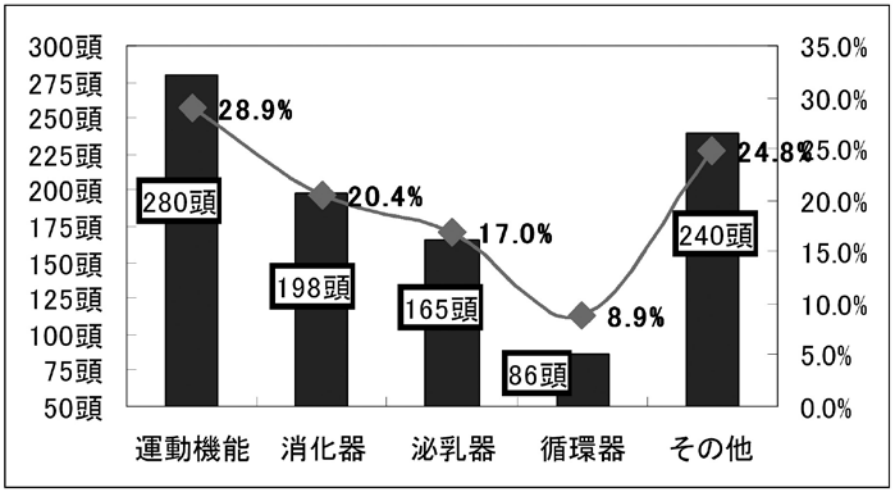
死廃頭数の月別発生状況をみると、九月から十一月の発生が多いことが確認されます。猛暑による影響も十分考えられるものと思えます。

三　平成二十四年八月一日基準の頭数調査結果

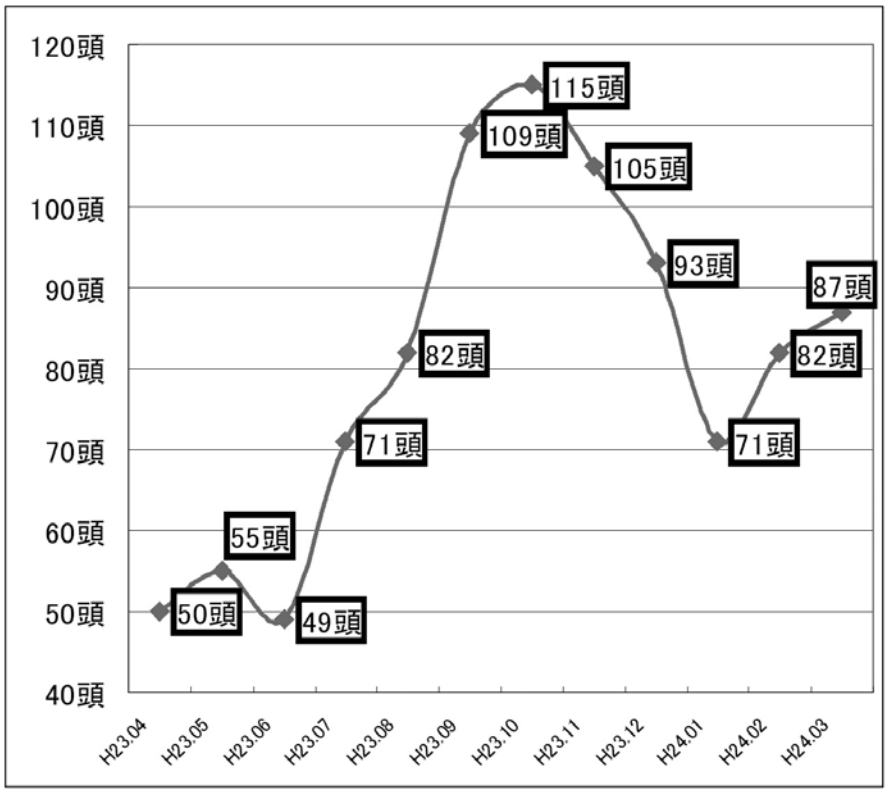
生乳出荷組合員を対象とした平成二十四年八月一日基準の頭数調査結果と前年同期の比較では、経産牛で百八頭の減少となっております。

また、空き牛床の数は、広酪全体で九百九十九床との調査結果が出ました。

【平成23年度の乳用牛死亡廃用の頭数】



【死廃頭数の月別発生状況】



【頭数調査結果の比較】

地域	平成23年8月調査					平成24年8月調査					比較増減			
	戸数	総頭数	経産牛	搾乳牛	育成牛	戸数	総頭数	経産牛	搾乳牛	育成牛	戸数	経産牛	搾乳牛	育成牛
備北	49	2,636	2,056	1,763	580	47	2,767	2,113	1,858	654	-2	57	95	74
南部	16	907	655	567	252	16	887	635	554	252	0	-20	-13	0
西部	56	2,364	1,735	1,499	629	55	2,254	1,626	1,419	628	-1	-109	-80	-1
東部	49	2,268	1,764	1,483	504	46	2,522	1,728	1,424	794	-3	-36	-59	290
合計	170	8,175	6,210	5,312	1,965	164	8,430	6,102	5,255	2,328	-6	-108	-57	363

【空き牛床数の状況】

地域	空き牛床数
備北	383
南部	57
西部	332
東部	227
合計	999

四　まとめ

生乳生産量の向上の基本は、飼養管理改善等により①経産牛一頭当たり乳量を向上させること、②死亡廃用頭数を減らすこと、③受胎率を向上させること、④後継牛を確保すること、⑤初妊牛を導入すること等々にあります。

組合員各位には、これらの点は十分にご承知のことと思いますが、特に経産牛一頭当たりの産乳量が二十六kg以下の方は、一kg以上の産乳量アップに着目し、この改善に努力戴きたいと考えます。

下の表をご欄下さい。経産牛一頭当たり乳量が二十四kg未満の経営体において、単純に一日一kgないし二kgアップを図れた場合、二kgアップの場合は、年間二千十八トン、一kgアップの場合は、年間一千九トンとなります。

あくまでも、机上値ではありますが、実際に生乳出荷組合員の内、経産牛一頭当たりの乳量が二十四kg以上の戸数が全体の五十%を占める八十二戸あります。

この実態からも、経産牛一頭当たり二十四kg以上の達成に着目し改善が進めば、経産牛一頭当たりの所得率も向上します。

如何でしょうか。再度、個々の経営実態を把握・検証戴くことで、脆弱を続ける生乳生産基盤の低下に歯止めを願うものであります。

【平成23年8月～平成24年7月分の出荷乳量に基づくデータ】

乳量ランク（kg）	戸数	構成比	改善後戸数	頭数	構成比	年間増加乳量	
						2kg増加	1kg増加
10未満	3戸	1.8%	―	57頭	0.9%	41,610.0 kg	20,805.0 kg
10～12未満	―	0.0%	3戸	0頭	0.0%	0.0 kg	0.0 kg
12～14未満	1戸	0.6%	―	6頭	0.1%	4,380.0 kg	2,190.0 kg
14～16未満	4戸	2.5%	1戸	55頭	0.9%	40,150.0 kg	20,075.0 kg
16～18未満	5戸	3.0%	4戸	103頭	1.6%	75,190.0 kg	37,595.0 kg
18～20未満	14戸	8.6%	5戸	361頭	5.8%	263,530.0 kg	131,765.0 kg
20～22未満	23戸	14.0%	14戸	557頭	8.9%	406,610.0 kg	203,305.0 kg
22～24未満	32戸	19.5%	23戸	1,626頭	26.1%	1,186,980.0 kg	593,490.0 kg
24～26未満	37戸	22.6%	69戸	1,669頭	26.8%	―	―
26～28未満	33戸	20.1%	33戸	1,391頭	22.3%	―	―
28～30未満	11戸	6.7%	11戸	381頭	6.1%	―	―
30～32未満	1戸	0.6%	1戸	33頭	0.5%	―	―
合　計	164戸	100.0%	164戸	6,239頭	100.0%	2,018,450.0 kg	1,009,225.0 kg

○今月の表紙

▼盆前後から「積乱雲」が頻繁に発生する。

▼今月の表紙写真は、昨年八月下旬に積乱雲発生の一コマをショットしたものだ。

▼周囲の雲々が集まり天高く登り、最低部から最後部迄の高さは一万メートルを超えることもあるそうだ。

▼改めて、この様子を凝視すると自然の力強さを感じる。

▼時として、雷鳴とともに大雨を引き起こし自然災害を誘発し脅威すら感じることがある。

▼広酪本所のある住所地は、雷の通り道と云われ、落雷が多かったと聞く。

▼本所には、避雷針を備えているが、三次CSのシーケンサー、本所コンピュータの影響を心配し、後段については念のため電源切断を行うこともある。

▼雲が付く四文字熟語に「行雲流水」、「雲煙過眼」、「風雲之器」などがある。

▼熟語以外で「風雲急を告げる」の言葉もある。

▼この意味、「ただごとでない情勢」を例えている。

▼酪農業界、いや、食料品業界において米国干魃による収穫量激減は、相場の高騰のみならず、食料危機を予感させる。

▼配合飼料の第3四半期価格も値上げとの情報が流れ、「通常」並びに「異常」の配合飼料安定基金の発動が予想される。一方で、基金財源の枯渇がささやかれる。

▼まさに「風雲急を告げる」状況に晒されている。

▼中国生乳販連による乳価交渉は、第3四半期の飼料価格動向を踏まえた中で行う方針としている。

▼輸入粗飼料価格も上昇し、自給粗飼料の確保に視点を置いた話題も多く出るようになった。

▼鳥取県内のコントラクターでは、トウモロコシの刈り取りが進み、反収で九トンの収穫があったそうだ。

▼例年の倍量、酪農家の喜びが伝わった。

▼今年は、天候に恵まれたことで朗報がもたらされた。

▼改めて、自給飼料、自家育成牛の確保対策をより真剣に進める必要性を感じる。